

て國防奉仕の榮譽ある記念木たりしが、大正の中頃誤つて伐採の厄に遭ひ可惜記念樹を失ひたり、又その一角に蟠屈する枉谷樹は當山開創己來の歴史を物語るもの、如く巨幹全庭を壓するの趣あり、先年盛岡市より要保存名木に指定せられたり。

蟠屈ばんくつ＝盤屈。うねりまがる。

(五) 盛岡和讃

明治維新以前和讃講時代の創作ならん從來法華和讃又は歌題目と稱し一種獨特の歌調を帯びたる頌歌あり、他教徒間に流布する和讃或は御詠歌と稱するものとは斷然その選を異にし頗る優雅典麗の歌調なるが篤信婦人村田いま（以満）子女史更に之が改善に心を碎き幾多の苦心を累ね漸く現今の如き音律莊重なる獨特の謠態を完成したり、則ち隊員は太鼓に合し宗祖開祖の御詠等を歌頌し終りに玄題二唱するを一聯とする仕組にして其聲樂餘韻眞に逼るものあり、その歌詞は宗祖開祖の御詠を主とし他の讃歌を合し曾て野口日主上人 本多日生上人 笹川日堂上人等數度の改訂を経てその數百數十首に達せり、曾て笹川日堂上人明治四十三年の春顯本法華讃歌集として第一輯の出版ありたり。

(六) 山内著名の墓碑

利直公御孫女 貞了院殿 御墓

同 青蓮院殿 御墓

勤王志士 中島源藏常明之墓

不識院殿上杉謙信法印之墓

爲師恩報謝見坊景兼建之

兵學家 上山 半左エ門 白井 直右エ門

三、歴代書簡ほか古文献

俳 人 渡 邊 誠	文學 博士 原 勝 郎	醫師 儒者 原 勝 外	醫 師 池 田 政 之	書 家 上 田 林 治	畫 家 藤 田 永 壽	歌 道 島 川 瀬 織	劍 弓 上 田 茂 壽	新當 流 印東 彌石 工門	無邊 流和 中川 清 茂	諸賞 流和 下田 覺之 進直 義		野々 村 雅 古	富 田 邦 宥	槍 術 下 田 榮 隆	桂 盛 政	砲 術 寄 木 友 夢		儒 者 遠 藤 長 俸	遠 藤 長 純	根 市 政 德	長 谷 川 安 智	中 原 正 敦	上 山 繁 記
佐 藤 鬼 丸				毛 馬 内 直 温	藤 田 永 湖		根 市 貢	江 本 八 左 工 門		浦 上 彼 面	出 石 政 隣	野 々 村 雅 知	臼 井 隼 太		中 島 常 道		板 垣 政 德	板 垣 桑 陰	浦 上 勝 繕	長 谷 川 安 崇		臼 井 何 右 工 門	
								江 本 雄 左 工 門					富 田 邦 命	富 田 邦 廣									

内城 廣高 設樂 東藏
力 士 千鳥川盛右エ門 二所關軍右エ門
盛岡市長 毎日新聞社長

小泉 多三郎

上田 常隆

盛岡市長

岩手縣會議員

軍人

盛岡市會議員

(議長) 田代 三郎

板垣 征四郎

宮 善次郎

小泉 久仁雄

(七) 達磨座敷



狩野探幽筆達磨像大軸と達磨座敷名の由來

享保十五年(一七三〇)、城下の禪刹報恩寺の一華和尚と當山法華寺十一世日瑠上人が教學上の論議を闘わし、日瑠上人が凱歌を擧げた。

そのため一華和尚は狩野探幽の筆による達磨像の大軸と、これの扶持料として、市内三ツ割太藏坂の畑地を寄進した。

このときから法華寺の座敷は誰いうとなく達磨座敷と呼ばれるようになった。また一華和尚はますます精進を重ねられいまにみる報恩寺の五百羅漢を作られたという。

またこの座敷は南部彌六郎さまが來寺されたときの接待部屋でもあったことから、彌六郎座敷とも別稱されている。